

『吟詠教本 律詩・古体詩篇(下)』の吟符等変更・訂正について

吟道研究委員会

発刊以来、種々検討を重ねてまいりました結果、吟符等の変更・訂正の必要が生じ、ここにご案内させていただきます。

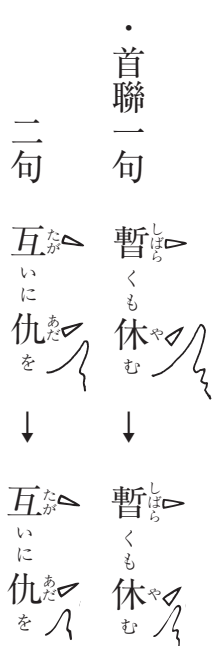
講座を通じて既にお知らせ済みのものもありますが、詩全体の吟調を検討して変更したものです。

軽微なもの以外を左記に掲載いたしますので、ご確認ご変更等をお願いいたします。なお、令和5年6月10日発行の五版(紙製表紙)につきましては、項番3と15の訂正を除き修正済みです。

また、今般頒布のCDにつきましては、左記の内容はすべて対応しておりますので、この機会に最新版(五版)とご一緒にお持ちいただけますと便利です。

【余韻】全体の大ゆり、中高音等の余韻を書き直しています。(大きさの変更) また、押さえなどわかりやすさに配慮しました。

例 3頁「川中島を望む」菊池溪琴



【読み・吟符等の変更】

1	3頁「川中島を望む」菊池溪琴 領聯四句 「二水交争い流る」 ↓ 「二水交争い流る」
2	11頁「彰義隊」向山黄村 ※『吟道』平成28年10月号で訂正掲載 領聯三句 「喪う」読み 「うしなう」 ↓ 「うしのう」 頸聯五句 「千方」読み 「せんほう」 ↓ 「せんぼう」
3	27頁「平泉懷古」本田種竹 首聯二句 「古今」読み 「こきん」 ↓ 「こきん」「ここん」共に可。 ※再版より追加 領聯四句 「雕梁」読み 「ちようりよう」 ↓ 「ちようりよう」 ※次回、六版で訂正
4	47頁「鎌倉懷古」芳川越山 領聯四句 送り仮名「猶を」 ↓ 「猶お」
5	79頁「水郷晚景」石田東陵 尾聯八句 「高歌」 ↓ 「高歌」
6	87頁「秋夜の曲」橋本蓉塘 六句 「太だ長く」 ↓ 「太だ長く」

7	99頁「嵐山にて春樵道人に逢う」菊池溪琴 吟題「逢う」読み「あう」↓「おう」
8	125頁「戯れに元珍に答う」欧陽脩 頸聯五句「帰雁を」↓「帰雁を」
9	141頁「催租行 王建に効う」范成大 吟題「効う」読み「ならう」↓「なろう」
10	149頁「金陵駅」文天祥 首聯二句「孤雲」↓「孤雲」 「復た」↓「復た」 領聯四句「城郭」↓「城郭」 頸聯六句「燕子」↓「燕子」 尾聯八句「化して」↓「化して」
11	157頁「岳鄂王の墓」趙孟頫 ※『吟道』平成28年10月号で訂正掲載 尾聯八句「山色」↓「山色」 送り仮名「勝へず」↓「勝えず」

12	165頁「秋柳」王士禎 ※『吟道』平成28年10月号で訂正掲載 尾聯七句「風に臨みて」↓「風に臨みて」
13	169頁「悼亡」梅堯臣 首聯二句「逢う」読み「あう」↓「おう」
14	173頁「子瞻が和陶詩に跋す」黄庭堅 尾聯八句「乃ち相似たり」↓「乃ち相似たり」
15	177頁「夜坐感有り」朱熹 尾聯八句「蕭瑟」読み「しょうひつ」 ※次回、六版で訂正
16	193頁「子夜呉歌」李白 二句「万戸」↓「万戸」 四句「総べて是れ」↓「総べて是れ」
17	197頁「友人と会宿す」李白 四句 送り仮名「能はず」↓「能わず」